



今崎曉巳

続

友よ●

未来を

うたえ

日本フィル

ハーモニイ物語

JAPAN PHILHARMONIC SYMPHONY ORCHESTRA
労働旬報社



続友よ●未来をうたえ

日本フィルハーモニー物語

JAPAN PHILHARMONIC SYMPHONY ORCHESTRA

今崎暁巳 労働旬報社

日本フィル



いま ざき あけ み
今 崎 暁 巳

1930年生 早大大学院卒

著書 ドキュメント「こぶだらけの勝利」

「いのちの讃歌」

「伊那谷は燃えて」

「友よ！ 未来をうたえ」

「三菱帝国の神話」他

(以上、労働旬報社)

「千代田丸事件」(現代史出版会)

小説 「吼えろ青春」(労働旬報社)

シナリオ 「娘たちは風にむかって」

「あしたの火花」

テレビ 「判決」など。

続／友よ！ 未来をうたえ

検 印 略

1977年12月5日 初版第1刷発行

著 者 今 崎 暁 巳

発行者 柳 沢 明 朗

発行所 労 働 旬 報 社

千代田区神田神保町

3-17-28協同第1ビル

03 (263) 7141~5

振替 東京0-180374

装 幀

アルファ・デザイン

印 刷 所

東銀座印刷出版株式会社

製 本 所

(有)坂本製本

第一部 二〇〇〇日の語らい——音楽と人間を求めて

第一章 未来をうたうシンフォニー

—深い願いこめ三百人コンサート

I 連帯の演奏会……………二五

1 史上最大のコンサートで訴えよう……………二五

2 私たちはこめました……………二八

—さまざまな困難をこえさせたもの

II オーケストラの醍醐味に包まれて……………二四

1 全国の音楽家のメッセージ……………二四

2 浮かぶ五年半の一節一節……………二〇

—壮大な音の祭典のなかに

3 つかんだオケ再生の芽……………三三

—心の壁をとりはらう祝賀会

Ⅲ 日本フィルを突破口に……………三

1 日本フィルに励まされて……………三

2 四六年間の音楽家の願いと期待こめ……………四

3 成功した音の連帯……………四

—新しい一歩へのシグナル

第二章 精神の貧困を拒絶して

—不幸で苦しいときに耐えさせたものは何か

Ⅰ なぜ困難に挑戦するのか……………四

1 執念と情熱の源泉……………四

2 オーケストラ音楽への限らない情熱……………五

Ⅱ たちはだかる壁……………五

1 四つの壁……………五

2 音楽とたたかいと商売と……………六

3 専従者の苦悩……………六

Ⅲ なにが厚い壁をこえさせるか……………六

—日本フィルの音楽とたたかいの魂

1	晴れの日をめざすなかに——第二九三回定期……………	六
2	音楽家の歓喜……………	七
	—音づくりと精神の豊かさ—	
IV	オケを支える新しい血液……………	七
1	再建のための血のにじむ決断——新人採用……………	七
2	なぜ日本フィルを選んだのか……………	八
	—新人第一号の思想と行動	
	i 日本フィルに新しい音楽の可能性をみて／ii 未来の 日本の音楽をつくる	
V	新人群像……………	六
1	さまざまな個性と才能……………	六
2	最高の音楽の世界をめざして……………	九
	—秘められた挑戦	
第三章	風雪をこえて……………	
	—日本フィルのたたかい五年半	
I	音楽界の危機の現実……………	九

Ⅱ 危機の時代の音楽のなから……………104

1 座して死を待つより……………104

2 人間的で美しいものは亡びない……………107

Ⅲ 日本フィルのたたかいは今?……………113

1 千代田総行動とともに……………113

2 音楽家も制作者も語る……………115

—裁判の現段階

3 ひろがる連帯……………

Ⅳ 五年の風雪のなから……………124

1 楽員と家族の暮らし……………124

2 家族会の活躍……………123

—七七・二・一九集会をきっかけにして

3 強く心豊かな音楽家集団への変身……………127

i 自由で豊かな世界をつくる／ii 個性と人間連帯の追究

—新しい芸術集団の形成へ

第二部 聴衆・市民とともに

第一章 南の国に根づく市民とともに

I 人びとは日本フィル演奏会になにをこめる……………一五二

1 下からの文化づくりの流れ……………一五二

2 演奏会でガンバレと叫ばせたもの……………一五五

—農村の地の音楽活動と結び—人吉

3 人間が真実の叫びを放っている思い……………一六〇

—佐賀・北九州・大牟田のとりくみ

II 三年めの壁から多様な芽が……………一六四

—分岐点をこえる方向とエネルギー

1 シラケをとばす九州各地の「日本フィルの会」の活躍……………一六四

2 地元文化をつくることと日本人の音楽創造へつながる課題……………一七三

i 高校生との深い交流のなかから／ii 各地の文化・音楽

づくりへの日本フィルの役割

Ⅲ 真紅のデイゴの花の地に……………一七九

—沖繩の心に熱い共感—

1 ニステージ四〇〇〇人一〇〇〇万円への挑戦……………一七九

2 なぜ沖繩と日本フィルの心はひとつか……………一八四

3 待っているものがきた……………一八九

第二章 音楽の根つき

I 各地方に……………一七〇

1 四五〇〇名の音楽連盟結成へ……………一七〇

—音楽による町づくり—石下町

i 日本フィルとともに四〇〇名二泊三日ミュージック

フェスティバル／ii 楽員家族も初めてともにすごし—

フェスティバルの贈りもの

2 さいはての地の祭典……………二〇八

—函館の日常サークル活動など—

3 若者たちの祭典——姫路のとりくみ……………二一七

Ⅱ 多様に——青年・子ども・労働者とともに……………二三五

第三章 新しい一步——今後への展望

——音楽も運動も

1 青年をとらえる文化と音楽を……………	二三
2 子どもたちに自分を表現させる音楽を……………	二三
3 交響詩、風雪——われわれの歌、国民の音楽を創る……………	二四

I 楽員・聴衆が同じフロアーで……………	二五
----------------------	----

——画期的なシンポジウム

II 確信と展望と……………	二五
----------------	----

1 日本フィルの要求にこめたもの……………	二五
2 新しい日本フィルと協会のあり方を……………	二五

終章 市民とともに……………	二七
----------------	----

あとがき……………	二八
-----------	----

第一部

二〇〇〇日の語らい — 音楽と人間を求めて

それは日本の国でかつてなかったことです。おそらく世界でもなかったことでしょう。資本から切り捨てられた大オーケストラが五年半、自力で日本各地の人びとに支えられて音楽しつづけ、生きつづけたのです。この大変な事実の重みとともに、それを可能にした市民や音楽家たちの生活の中に、なにか大きくて深い意識の変化と、燃えあがる、まったく新しい連帯が生まれつつある状況の意味を、私はいま、全身で受けとめています。それは音楽と音楽家の運命にかかわるとともに、人間の運命そのものにかかわること。『日本フィルを救え』という運動の中に、なにかしら生活と文化を、深い根本のところで考え直し、変えていこうとする人びとの動きを感じるのである。人間らしい世界をつくろうという、長く潜在していた民衆の悲願が現実のものになっていく動きを感じるのです。日本フィルの悲劇にたいするたたかいが導火線になって、なにかまったく新しい運動が下から起こりつつあるということ――

日本フィルハーモニー交響楽団がフジテレビ・文化放送に情容赦なく解散解雇を強行され、音楽家たちがたたかいながら、音楽する生活に入って、まもなく、二〇〇〇日になろうとしています。

「音楽家を見殺しにするな、音楽文化の危機に立ちあがろう」
政府・資本に文化育成の責任をとってもらおう」下からの音楽運動、文化運動を広げよう——さまざまな声や運動が、日本フィルを支援する人びとの周辺に起こり、その人びとのひたむきな願いと行動が、この五年間、日本フィルを支え、破滅の危機に立たされたオーケストラを生かし、音楽を創りつづける力を育ててきました。その間、日本フィルを一度でも聴いた人たちの数は、一五〇万人にもなろうとしているのです。

音楽家たちが、オーケストラの危機を——と、楽器をもって市民の中に入り、歩みつづけた五年半——オーケストラの愛好家も、初めて生の音楽と音楽家に触れた人びとも日本フィルの音楽を愛し、切っても切れない音楽と人間の出合いと結びつきをつくり、育ててきたのです。

ほんとうに、この危機の時代に、バイオリン一本、ラッパ一本もって、音楽家たちが町から町へ歩きつづけ、二〇〇〇日、途絶えることのない音の語らいがつづいたのです。この人間破壊の時代に、美しく、愛情豊かな音楽を生み、人間らしく豊かに生きる歓びをつくりつづけてきたのです。

第一章

未来をうたうシンフォニー

——深い願いこめ三百人コンサート

